

UCR-JIU Pharmacy Internship Program 2015

Feb 20th (Fri): Pharmacy & KAISER Clinic in TARGET & Guest speaker of Dr. Dao

講演タイトル「米国薬剤師の役割とその歴史」

Dr. Dao は、医療事務やファーマシーテクノロジーを経験後 Pharm D を取得し、現在コミュニティファーマシーのマネジャーにまでキャリアを伸ばした方です（写真左）。彼女のこれまでの経験も踏まえ、米国で薬剤師になるためのトレーニングや薬剤師の資格取得試験、そして、2年ごとの資格更新の手続きや自己学習について話してくださいました。さらに、薬剤師とファーマシストテクノロジーの役割分担の明確化、患者さんに正しく医薬品を服用してもらうために薬剤師はどこに注力しているのかなど、メンバーとゲームや質疑応答をしながらわかりやすい講演を行ってくださいました。



メンバーの日記より

今日は、TARGET 内にある薬局に行きました（写真3枚目）。お話いただいた薬剤師さんは以前別のコミュニティファーマシーに務めておられ、TARGET は CVS などと比べ処方箋の枚数が少ないため、患者一人ひとりと関わると話してくださいました。また、薬の知識は患者さんを怖がらせるのではなく正しく使用するために必要であること、さらに大切なことは、患者さんによく理解してもらうために要点をとらえ短く言うことだと教えてくださいました。これらは自分が将来薬剤師になった時に役立つことなので取り入れていきたいと思いません（M.H.）。

今日は TARGET 内にある薬局とクリニックの見学に行きました（写真4枚目）。TARGET は食材や日用品など何でも揃う大きなお店でした。TARGET の薬局



UCR-JIU Pharmacy Internship Program 2015

はボトルの形を工夫したり、隣りにクリニックがあったりにより患者さんの身近にある薬局だと感じました。買い物のついでに薬局やクリニックに行くという感覚がなかなか新鮮でした (H. K.)。

TARGET にある薬局とクリニックを訪問した。処方箋の有効期間が日本と異なり、かなり長い期間有効であることにも驚いた。薬剤師は知識ももちろん大切だが、それらを生かすコミュニケーションも重要であると学んだ。一方、クリニックには医師はおらずナースプラクティショナーという経験と技術を積んだ看護師がいて、医療行為ができることを知り、日本も様々なことを取り入れた方がいいと思った (T. G.)。